

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和4年12月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケートで情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。
この度、令和4年12月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 景気の現状判断DIは前回調査から上昇 ～

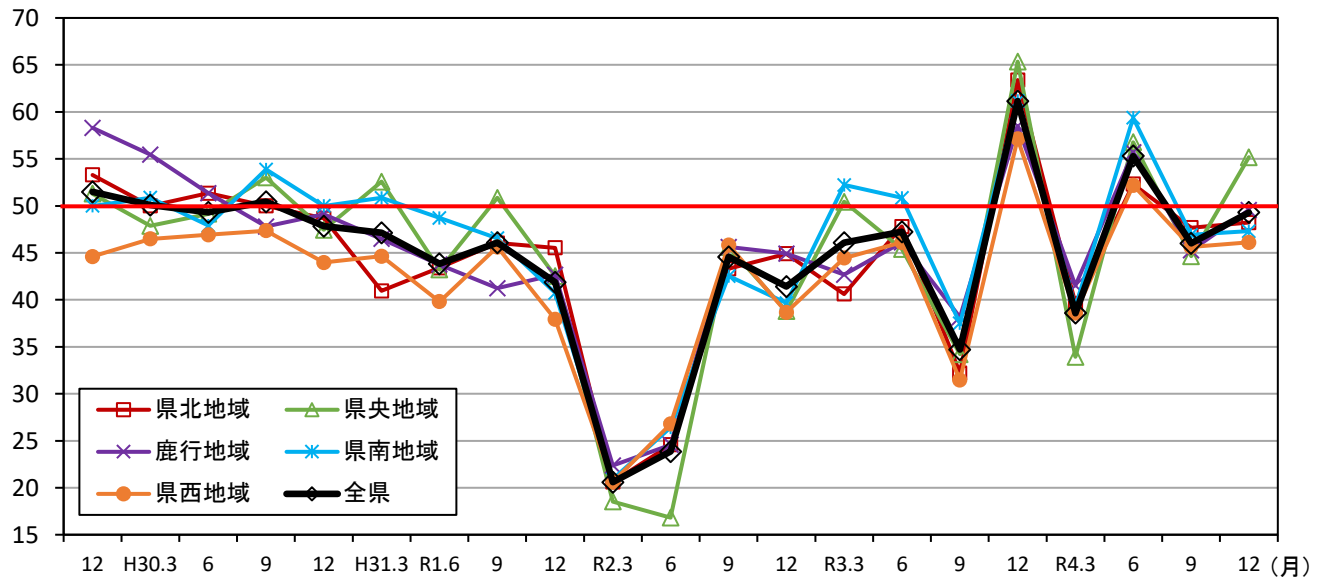
区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI (Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気 directional (景気が上向きか下向きか) を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比 (%) で乗じてDIを算出している。 <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
	12月調査結果	前回調査との差	12月調査結果	前回調査との差	
県全体	49.3	+3.3	45.6	-0.7	
県北	48.2	+0.5	40.2	+1.3	
県央	55.2	+10.6	43.5	-8.3	
鹿行	49.6	+4.3	48.2	+2.9	
県南	47.3	+0.4	47.3	-0.5	
県西	46.1	+0.5	48.7	+1.3	

☆ここがポイント

○県全体の景気現状判断DIは前回調査から上昇したものの、2期連続で50を下回った。先行き判断DIについても2期連続で50を下回った。

○ウォッチャーからは、新型コロナウイルスや商品等の値上げに関するコメントが多く寄せられた。

(DI) 景気の現状判断DIの推移（地域別）



〔調査の概要〕

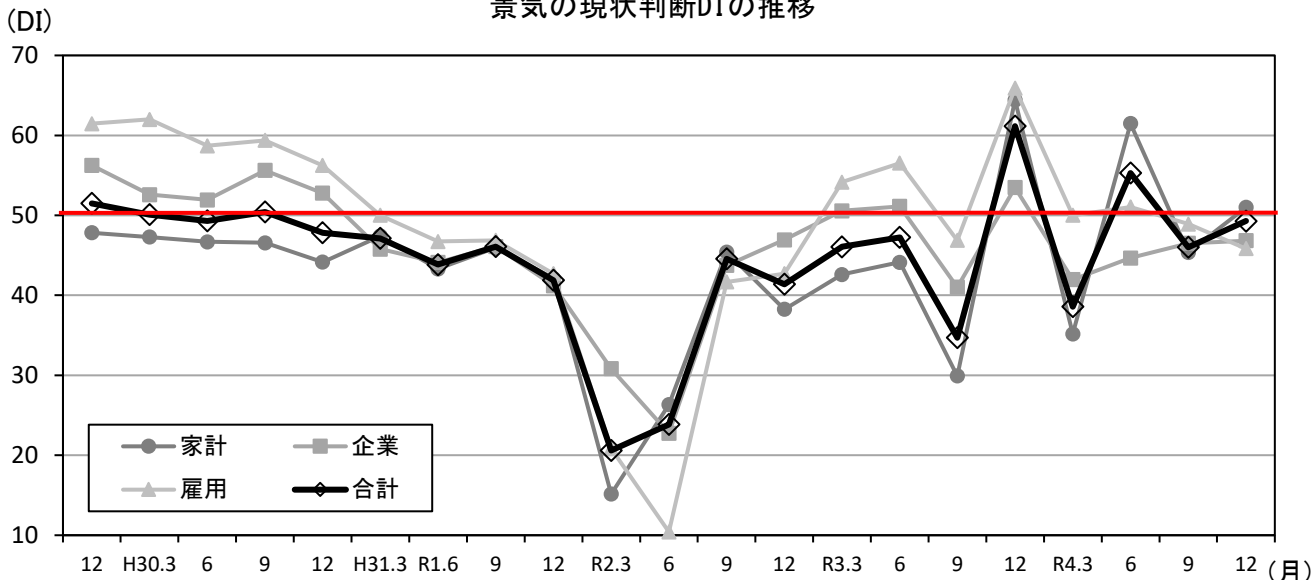
- ・ 調査客数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに60名、計300名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和4年12月5日から20日まで）
- ・ 回答率 … 95%（300名中285名から回答）

（地域区分）
 県北地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
 県央地域：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
 鹿行地域：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
 県南地域：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

2 県全体の動向

(1) 現状判断DI

景気の現状判断DIの推移



分野	調査年月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月
合計		61.2	38.6	55.3	46.0	49.3
家計動向関連		64.4	35.2	61.5	45.4	51.0
小売関連		53.2	33.6	54.9	40.8	44.6
飲食関連		72.7	27.2	68.8	41.3	65.5
サービス関連		75.4	38.5	67.0	51.6	53.0
住宅関連		46.9	40.6	46.9	36.1	50.0
企業動向関連		53.5	42.0	44.7	46.5	46.8
農林水産業		57.1	34.4	34.4	37.5	40.6
製造業		53.1	41.7	43.1	46.3	48.4
非製造業		53.2	44.1	49.3	49.2	46.1
雇用関連		65.9	50.0	51.0	48.9	45.8

景気の現状判断DIは49.3となりました。前回調査より3.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

家計動向関連DIは、前回調査より5.6ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より0.3ポイント上昇したものの、4期連続で50を下回りました。

雇用関連DIは、前回調査より3.1ポイント低下し、2期連続で50を下回りました。

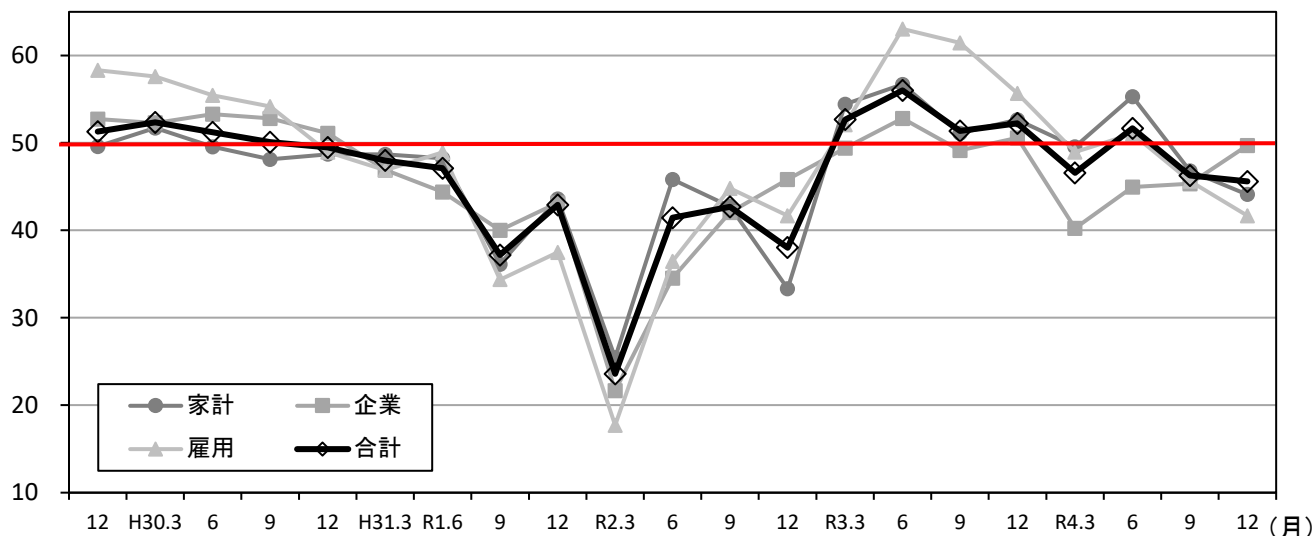
《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(県北：観光型ホテル) 宿泊補助事業である「全国割」により、コロナ禍前と比較すると同等位で推移しているため、変わらないと判断した。3か月前と比較すると一人当たりの消費単価が下がっている。
- ・(県央：割烹料理店) 新型コロナウイルスの第7波が落ち着いてきたので、集まりなどが増え、仕事が増えてきたため、良くなっていると判断した。
- ・(鹿行：サービス業) 世情に目立った動きはなく、景気の浮揚感も感じられない。また、例年であれば、年度末を見越して四半期に計画されている比較的大型の商談引合が少なく、動きが鈍いように感じるため、変わらないと判断した。
- ・(県南：住宅販売会社) 資材の値上げにより住宅価格が高騰し、動きが悪くなってきているため、やや悪くなっていると判断した。
- ・(県西：求人开拓員) 徐々にコロナ禍前の生活様式に戻つつあるが、管内の求人状況、当所への就職相談での利用者は減少傾向にあるため、変わらないと判断した。

(2) 先行き判断DI

(DI)

景気の先行き判断DIの推移



分野	調査年月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月
合計		52.2	46.6	51.7	46.3	45.6
家計動向関連		52.6	49.5	55.3	46.8	44.1
小売関連		49.6	48.4	47.0	40.4	41.4
飲食関連		58.0	46.6	71.3	52.5	47.6
サービス関連		54.7	52.1	61.0	51.3	45.9
住宅関連		46.9	43.8	31.3	44.4	41.7
企業動向関連		50.6	40.2	44.9	45.3	49.7
農林水産業		50.0	31.3	28.1	34.4	46.9
製造業		48.4	40.0	46.3	48.4	48.4
非製造業		54.0	42.6	47.1	43.5	52.3
雇用関連		55.7	49.0	51.0	45.7	41.7

景気の先行き判断DIは45.6となりました。前回調査より0.7ポイント低下し、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

家計動向関連DIは、前回調査より2.7ポイント低下し、2期連続で50を下回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より4.4ポイント上昇したものの、4期連続で50を下回りました。

雇用関連DIは、前回調査より4.0ポイント低下し、2期連続で50を下回りました。

◀景気ウォッチャーのコメント(抜粋)▶

- ・(県北:自動車販売店) 今後も様々な物の値段が上がり、生活重視の傾向になり、高額な自動車の購入については先送りになる可能性が高いと思うため、やや悪くなっていると判断する。
- ・(県央:学校就業関係者) 世界情勢が好転せず、悪化した状態の長期化が想定される。ますます影響を受ける業種・業界が増えると思われるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・(鹿行:金融業) 世界的な原油高は継続しており、新型コロナウイルスに関しても収束の目途が立っておらず、地域経済活動の回復は見込めないと思料するため、変わらないと判断する。
- ・(県南:スーパー) 今後も商品の値上げが続けば、さらに厳しくなると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・(県西:製造業(食料品)) 食料品関係の全体的な値上げ、また、光熱費の値上げが今後も続くと思料しているため、やや悪くなっていると判断する。

3 地域別の動向（※調査結果はP.1参照）

（1）県北地域

- ① **現状判断：** 景気の現状判断DIは48.2となりました。前回調査より0.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（小売業（食料品））光熱費、資材等が、値上がりし、利益率が下がっているため、やや悪くなっていると判断した。
- ・（林業関係者）林業界にとっては生産、販売、価格ともいい時期のはずが、製品の出荷及び素材の価格も下がり気味なため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは40.2となりました。前回調査より1.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（製造業（電気機械器具））受注に変わりはなく景気悪化と感しない所はあるものの、電気代の高騰で支出が多い状況の改善が図れないため、悪くなっていると判断する。
- ・（求人広告）新型コロナウイルスの時もそうだが、この変化した状況に各企業が対応するまで時間を要するため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（美容室）客の来る周期が長くなってきている。
- ・（製造業（電気機械器具））各種部品の入手困難や高騰により、代替品化を提案していく予定。また、取引先もその動きが見られる。

（2）県央地域

- ① **現状判断：** 景気の現状判断DIは55.2となりました。前回調査より10.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（楽器販売）来店客数、売上げ共、昨年と比べ上昇しているため、やや良くなっていると判断した。
- ・（製造業（一般機械器具））建設機械部品製作は非常に忙しいため、やや良くなっていると判断した。しかし、自動車部品製作は半導体不足の影響が続いており低調である。

- ② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは43.5となりました。前回調査より8.3ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（都市型ホテル）予約状況が伸びておらず、今後も大きく伸びる様子もなく、現在よりも下がると予想するため、やや悪くなっていると判断する。
- ・（スーパー銭湯）人手、物不足に加えエネルギーコストが大きな負担になってくる。電気料金の値上げ要請も来ていて、コストが増える事は明白なため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（日本料理店）アルコールを飲む人が増えてきている。
- ・（公共職業安定所）宿泊・飲食サービス業の数値が好調。最新の指標（令和4年10月分）で、新規求人数が前年同月比24.8%の増。10月に全国旅行支援が開始されたこと、入国規制が大幅に緩和されたことが大きな要因と思われる。

(3) 鹿行地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは49.6となりました。前回調査より4.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (家電販売店) 3か月前と比較し、変わらないと判断した。電力、原材料高騰や商品供給の遅れなど、改善する要素がなく、客数の減少を招いている。
- ・ (運輸業(道路貨物運送業)) 直近3か月の前年対比は横ばいで、伸び率としては3か月毎に減少しているため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは48.2となりました。前回調査より2.9ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (運転代行) 売上げも期待できない傾向にあると思うので、景気はやや悪くなっていると判断する。
- ・ (求人开拓員) 事業所からの求人数は、依然としてそれほど変わらないのに対して、求職者等の相談人数が減少しているため、やや悪くなっていると判断する。当地区で先月実施した「就職面接会」でも、参加事業所数はさほど変わらないが、参加求職者数が大幅にダウンした。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (小売業(薬品店)) 感染拡大で風邪薬の売上げが伸びている。
- ・ (洋食食堂) 売上げは伸びているが、それをはるかに上回る食材の値上げが続いている。何をもって景気が良いというのか難しいが、売上げの伸びより、食材の大幅な値上がりと人件費の上昇に頭を悩まされている。

(4) 県南地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは47.3となりました。前回調査より0.4ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (コンビニエンスストア) 物価上昇のあおりを受けて、買控えが発生しているため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (建設業) 仕入れ資材の値上げとともに、納入も発注しないと日程がつかめず、仕事にならない。客も検討中ではないかと思われるため、やや悪くなっていると判断した。現在、物によって2~3か月待ちが多い。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは47.3となりました。前回調査より0.5ポイント低下して、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (レジャー施設) 今後も来場者数の減少が続くと推察されるので、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (公共職業安定所) 変わらないと判断する。新規求人数は、わずかに増えているが、物価高騰等の影響を注視していく必要がある。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (サービスエリア) 旅行支援クーポン利用の問合せが何件か寄せられる。東京方面からの夕方以降のバスの立ち寄りが若干増えたようにも感じる。
- ・ (製造業(その他)) 値上げ交渉をしてもまだ応じてくれない会社があるため、仕事を断るしかない。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは46.1となりました。前回調査より0.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(家電販売店)物価高騰、給与変化なしで、財布の紐は非常に固いように感じる。ボーナス支給が始まったが、前年と比べて商品購入単価は低いため、やや悪くなっていると判断した。
- ・(製造業(電気機械器具))受注量減により、各職場で作業時間が短い勤務への勤務変更が相次いでいるため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは48.7となりました。前回調査より1.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を4期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(設計事務所)円高の影響が出て、コストアップにつながり、事業の進行可否や見直しがされ始めたため、やや悪くなっていると判断する。
- ・(人材派遣業)12月に入り派遣依頼が減少している。大手製造業の生産見通しが不透明で、関連会社を含め予測がつかないため、変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(不動産業)不動産投資で賃貸料を稼ぐ若者が、県外から不動産を探しにきている。ハウスメーカーが高級賃貸物件建築に積極的に取り組んでいる。
- ・(求人開拓員)当所の求職相談者の状況をみると、一定数だが内職希望者や60歳以上の高齢の方の相談も増えている。

4 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

- ・「値上げ、高騰、上昇」に関するコメント 197件(県北:39 県央:44 鹿行:37 県南:45 県西:32)

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(和食食堂)原材料の高騰により、価格に転嫁する必要が多くなっている。人材も少なくなり、獲得競争が激しい。社会全体として値上げとともに賃金上昇を受け入れる姿勢が見える。
- ・(製造業(一般機械器具))製造業の各企業で仕事量が増えてきたとの声をよく聞くが、燃料費や材料費が高騰しており、コスト高騰分の価格転嫁が難しく結果、利益は減ってしまうため、変わらないと判断する。

- ・「新型コロナウイルス」に関するコメント 125件(県北:25 県央:29 鹿行:22 県南:22 県西:27)

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(写真店)新型コロナウイルスの影響で、縮小や中止の仕事がまだ多くあるため、やや悪くなっていると判断した。
- ・(農産物直売所)新型コロナウイルスが落ち着いてきて、人の流れは多くなったかのように見えるが、逆に物価が上がっているため、変わらないと判断した。

- ・「円安」に関するコメント 20件(県北:5 県央:3 鹿行:4 県南:5 県西:3)

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(学校就業関係者)家計は苦しくなっているが、円安により、輸出関連企業は景気が良いと感じている(求人も積極的である)ため、変わらないと判断する。
- ・(レジャー施設)円安のピークが過ぎて、徐々に円高が進み、現在よりも物価が安定して景気も良くなると想定されるため、やや良くなっていると判断する。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>